

2018年度(平成30年度)教育研究構想

1 研究主題

「子ども主体の学び」を実現する評価と指導の在り方
～教科と総合的な学習の時間の「逆向き設計」による単元づくりを通して～

2 主題設定の理由

- 新学習指導要領の改訂の方向性から、知識の理解の質を高める資質・能力を高める「主体的・対話的で深い学び」への授業改善が求められている。
- 広島県版『学びの変革』アクション・プランが全県展開される。
- 福山100NEN教育が3年目となり、「原点回帰」で「子ども主体の学び」が全教室展開を目指している。
- パフォーマンス課題を取り入れて主体的な授業をつくってきたが、課題に対する自分の考えを持ち、相手の考えと比較したり関連付けたりして学習を深めるところまで至っていないという課題が残っている。

3 研究仮説

身に付けさせたい力、評価を構想して授業を行う手法である「逆向き設計」の単元づくりを取り入れた課題解決学習と評価の工夫を行えば、児童の学びは主体的になるであろう。

4 研究の基本的な考え方

(1)「子ども主体の学び」とは

- ①自ら「なぜ?」「どうなっているの?」と課題を見つけ、
- ②友だちとかかわり合って、学んだ知識をつなぎながら解決し、
- ③学びを深める中で「わかった」「できた」と実感している。

(2)「逆向き設計」による単元づくりとは

- ①ゴールをイメージして付けたい力を明確にし、
- ②指導前に評価方法を決定し、
- ③学習経験や指導方法を計画して、授業を構想していくこと。

5 研究内容

- (1) パフォーマンス課題を位置づけた単元づくり
- (2) ESDの観点に基づく探究的な授業づくり
- (3) 育成する4つの力(課題解決力・コミュニケーション力・挑戦する力・地域貢献力)と関連した評価
- (4) 思考の手立ての工夫(思考ツールの活用)
- (5) 地域人材・地域資源の活用

6 検証の視点と方法

- (1) 課題解決的な授業を仕組み、「授業がよく分かる」という児童の割合の変容。
- (2) 単元末テスト(国語, 算数, 理科)の平均点80点以上の割合の変容。
- (3) 各種学力調査(全国学力・学習状況調査, CRT 標準学力検査)の正答率を全国平均以上の割合の変容。